社会学部

【2025年度 大学評価総評】

社会学部では 2018 年度に開始したカリキュラムに加え、2022 年度から外国語教育新カリキュラム が導入され、積極的にカリキュラム改善に取り組むと同時に着実に新カリキュラム運営できている点 は高く評価できる。2022年度生の外国語教育の教育効果に関する最終評価に向けて、教授会、外国語 教育委員会、学科カリキュラム運営会議などの各会議体において、外国語新カリキュラムの教育効果 の中間評価に資する情報を共有したことは評価できる。学習支援として、2022年から始められた「先 輩学生による相談窓口」が安定的にかつ効果的に運営されていることは評価できる。演習 1、2、3 に ついて履修率や卒業論文の提出率が低下していることを問題視し、2025年度の重点課題として着手し た点は評価できる。卒業研究の充実は学生の満足度や大学院進学率の改善とも関連することであるた め、本取り組みが成果を上げることを期待する。経済学部の市ヶ谷キャンパス移転を受け、新たな将 来構想を構築する必要はあるものの、ソーシャルイノベーションセンターと学部が連携し、社会調査 実習や八王子住民向け報告会の実施など八王子市との地域連携を進める新しい試みをされていること は高く評価できる。

【2025 年度 自己点検・評価結果】

- I. 改善・向上の取り組み
 - (1) 2024 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2024年度大学評価結果総評】(参考)

社会学部では COVID-19 が 5 類に移行したことを受け、授業を原則対面に戻すとともに、コロナ禍 中に獲得したオンライン授業のノウハウを活かし、対面授業とオンライン授業やオンデマンド授業の 特長や利点を授業改善アンケートの満足度データなども参照しながら、次年度の方針を検討してい る。また 2022 年度から導入された外国語新カリキュラムの適切な運用とその教育効果について継続 的な検討が行われている。さらに「先輩による履修相談窓口」など個別の履修相談会を設け、その効 果的な運用を行っている点は評価できる。なお学修成果可視化システム(Halo)の組織的活用が不十 分との認識が有るので、今後は他学部などの活用事例なども参考にしながら、教授会執行部等で組織 的な活用方法を検討することが期待される。社会貢献・社会連携では、ソーシャルイノベーションセ ンターと学部が連携し、社会調査実習や八王子住民向け報告会の実施など新たな取り組みが実現され たことは高く評価できる。

【2024年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

2025 年度も、授業は原則対面としつつ、オンライン授業の有効活用も行なっている。学修成果可視 化システム(Halo)の組織的活用に関しても、基礎演習や演習1、2、3に関する情報とも絡めて、 継続して行ないつつある。ソーシャルイノベーションセンターと学部との連携もより強化していくと 共に、連携に関する情報共有が円滑に行えるように、学生への連絡方法の改善についての議論も教授 会で行なっている。

(2) 改善・向上の取り組み(教育課程およびその内容、教育方法)

アセスメント・ポリシーに基づき、デ ィプロマ・ポリシーに示した学習成果 を把握しましたか。結果を学部として どのように評価しましたか。

S. 学習成果が達成できていることが確認できた A. 学習成果が概ね達成できていることが確認できた B-1. 学習成果が達成できていないものがあったこと を確認できた

A(学習成果が概ね 達成できているこ とが確認できた)

B-2. 学習成果の達成度を確認するには、測定方法が 不十分であることが確認できた

《対応する大学基準:学位授与方針に明示した学生の学習成果を B-3. ディプロマ・ポリシーの見直しの必要性を確認

適切に把握及び評価していること。≫

上記の選択をしたのはなぜですか。実施主体、測定対象や測定方法を踏まえて理由を具体的に記入し てください。

≪理由≫

教授会、教務委員会、および年2回開催する「学科カリキュラム運営会議」で、学生の学習成果に関する成績データなどを継続的に把握し、評価検討している。学生モニターへのインタビューによる卒業論文に関する調査も、執行部により行い、教授会でも共有した。

教育課程およびその内容、教育方法について、学部として過去 4 年間(2021 年度~2024 年度)の中で特に改善・向上に向けて取り組んだ事例について、①~⑩の項目から《改善した項目》を選択し(レ点チェック)、その詳細について《改善内容》《改善した結果良かった点・課題》を記入してください。

≪対応する大学基準:教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。≫

事例

≪改善した項目≫ (複数選択可)

- □ ①開講時期、開講頻度、授業時間等
- □ ②授業科目の内容(目標、内容、開設授業科目数、授業科目の統廃合)
- □ ③授業科目の関係(各科目間の関係、ナンバリング、カリキュラムマップ、カリキュラムツリー、履修系統図等)
- ✓ ④教育方法(授業の形態、授業方法等)
- □ ⑤評価基準、評価方法
- □ ⑥学生の履修(履修科目の登録上限、履修順序、必修科目と選択科目の設定、配当年次等)
- □ ⑦地域社会・国際社会・産業界等の社会との接続、大学院教育との接続
- □ ⑧学習支援(単位の実質化のための取り組み、各種相談・サポート、学生 の主体的な学習を促す取り組み)
- □ ⑨留学、インターンシップ、フィールドワーク等プログラムの充実
- □ ⑩その他

≪改善内容≫

※理由を含めて記入してください。

対面・オンライン・オンデマンド等の授業形態の使い分けを行った。

≪改善した結果良かった点・課題≫

現在は原則としては対面で授業を行っているが、大規模授業や、それ以外でも特定の回数はオンライン・オンデマンドでの授業も取り入れることができるようになったため、柔軟な運用や、個別の学生に向けたきめ細かい対応が可能になった。

(3) 改善・向上の取り組み (教員・教員組織)

教員・教員組織について、学部として特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として 今後改善に取り組んでいきたいものを≪項目≫の中から選択し、≪内容≫を記入してください。

- ・教員組織に対する取り組み※
 - ※主に、教員が担う責任の内容、科目適合性の学内での判断、各教員の担当授業科目、担当授業時間の把握・管理(複数の所属、 他大学・企業等との兼務教員について業務状況や教育効果含む)について
- ・教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につながる組織的な取り組みとその成果
- ・授業における指導補助者 (TA等) の活用に対する取り組み

≪対応する大学基準:教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。≫

《対応する大学基準:教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。≫

《対応する大学基準:教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。》

≪特色または課題≫	課題
《項目》	教員組織に対する取り組み※主に、教員が担う責任の内容、科目適合性の学内での 判断、各教員の担当授業科目、担当授業時間の把握・管理(複数の所属、他大学・ 企業等との兼務教員について業務状況や教育効果含む)について

≪内容≫

3 学科で相乗りしている科目が社会学部には現在複数あるが、学科毎に学生が前提としている知識が異なり、齟齬が生じている場合があるので、それらの解消を目指していく。

Ⅱ.全学的な自己点検・評価結果より見出された重点的な評価項目

(1) 自由を生き抜く実践知を体現する取り組み

学部における 「実践知」を体現する取り組みに ついて、改善・向上を図っていますか。

《対応する大学基準:教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・ 評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。≫

《対応する大学基準:社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し、 改善・向上に向けて取り組んでいること。》

S. さらに改善した又は新たに取り組んだ

A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善

を困難とする要因がある。

A(概ね従来通りで ある又は特に問題 ない)

上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。

Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。

Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。

≪内容≫

(2) オンライン教育の取り組み

オンライン授業は「2024 年度以降の授業編成 における留意点について (報告)」(2023 年度 第6回学部長会議資料 No.7) に沿って、適し た授業科目に用いられ、その有効性や教育効 果を確認し、改善・向上を図っていますか。

《対応する大学基準:教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・ 評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること

S. さらに改善した又は新たに取り組んだ

A. 概ね従来通りである又は特に問題ない

B. 更なる改善が必要な点がある又は改善

を困難とする要因がある。

A (概ね従来通りで ある又は特に問題 ない)

上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。

Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。

Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。

≪内容≫

(3) 学生の声を活かした取り組み

学部レベルにおいて、学生の声を活かした改 善・向上を図っていますか。

《対応する大学基準:教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・ 評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。≫

S. さらに改善した又は新たに取り組んだ

A. 概ね従来通りである又は特に問題ない

B. 更なる改善が必要な点がある又は改善 を困難とする要因がある。

A(概ね従来通りで ある又は特に問題 ない)

上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。

Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。

Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。

≪内容≫

授業レベルにおいて、学生の声を活かした改 善・向上を図っていますか。

《対応する大学基準:教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・ 評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。》

S. さらに改善した又は新たに取り組んだ

A. 概ね従来通りである又は特に問題ない

B. 更なる改善が必要な点がある又は改善 を困難とする要因がある。

A(概ね従来通りで ある又は特に問題 ない)

上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。

Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。

Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。

≪内容≫

Ⅲ. 2024年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	・2022 年度から導入した外国語新カリキュラムの円滑な運営を図る(2022 年度~2025 年度) ・2022 年度生の外国語教育の見通しが見え始める 2024 年度以降、外国語新カリキュラムの教育効果に関する中間評価に着手し、改善の必要性についても検討する。 ・2018 年度から導入したカリキュラムについて評価検討し、今後のカリキュラムについて検討する。
年度目標	・外国語新カリキュラム開始時にあたる 2022 年度生の外国語教育に対する教育効果 に関する中間評価に着手する。新カリキュラムの 3 年目の運営状況について情報

		収集を図る。この際、教授会、外国語教育委員会および年2回開催する「学科カリ
		キュラム運営会議」を使う。
ļ		・2018 年度から導入されたカリキュラムの評価検討のための情報収集を行い、各会業体にないて、トルギ畑かかなれる課題の進い出した推りて
		議体において、より詳細なかたちで課題の洗い出しを進める。 ・教授会、外国語教育委員会、学科カリキュラム運営会議などで、2022 年度生の外
		■・教授云、外国語教育安貞云、子科ガリヤュノム連呂云譲などで、2022 年度生の外 国語教育に対する教育効果に関する中間評価に資する情報が共有ができている。
ì	達成指標	・2018 年度から導入されたカリキュラムの評価検討のための情報収集蓄積があり、
		詳細なかたちで課題が洗い出されている。
	教授会執行	デ部による点検・評価
	自己評価	A
		・教授会、外国語教育委員会、学科カリキュラム運営会議などの各会議体において、
		・ 教技云、外国語教育委員云、子科ガッキュノム連貫云磯などの行云磯体において、 外国語新カリキュラムの教育効果の中間評価に資する情報を共有した。
	理由	・2018 年度から導入されたカリキュラムの評価検討のための情報についても上記会
F		議体を通じて収集を行い、課題の洗い出しを進めた。
年		・各会議体において洗い出された課題を分析し、中間評価のための指標を見いだしを
度	¬ <i>L</i> , >/- /-/-	進める。
末	改善策	・中間目標設定時にはなかった経済学部の市ヶ谷移転問題への長期的な見通しも新
報		たな背景状況として加えながら、情報収集と課題の分析を進める。
告	質保証委員	員会による点検・評価
		2022 年度に導入された外国語教育新カリキュラムの効果についての情報共有, 2018
	所見	年度導入のカリキュラムの効果についての情報収集と検討が進められたことを評価
		する。
	改善のた	収集された情報をもとにして、中間評価に向けた課題の明確化と分析が進められる
		ことを期待したい。経済学部の市ヶ谷移転が社会学部のカリキュラムや履修状況に
	めの提言	
=	めの提言	もたらす影響についても検討課題の一つに加えていただくことを期待したい。
=======================================	めの提言 平価基準	もたらす影響についても検討課題の一つに加えていただくことを期待したい。 教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
=======================================	, .	もたらす影響についても検討課題の一つに加えていただくことを期待したい。 教育課程・学習成果【教育方法に関すること】 ・学生のカリキュラムへの理解を深め、学習の効率化を図る。また、成績不振学生へ
	, .	もたらす影響についても検討課題の一つに加えていただくことを期待したい。 教育課程・学習成果【教育方法に関すること】 ・学生のカリキュラムへの理解を深め、学習の効率化を図る。また、成績不振学生へのケアを実施する。
	平価基準	もたらす影響についても検討課題の一つに加えていただくことを期待したい。 教育課程・学習成果【教育方法に関すること】 ・学生のカリキュラムへの理解を深め、学習の効率化を図る。また、成績不振学生へのケアを実施する。 ・With コロナ、ポストコロナに向けて対面授業・オンライン授業を組み合わせての
	平価基準	もたらす影響についても検討課題の一つに加えていただくことを期待したい。 教育課程・学習成果【教育方法に関すること】 ・学生のカリキュラムへの理解を深め、学習の効率化を図る。また、成績不振学生へのケアを実施する。 ・With コロナ、ポストコロナに向けて対面授業・オンライン授業を組み合わせての質の高い授業を検討する。
	平価基準	もたらす影響についても検討課題の一つに加えていただくことを期待したい。 教育課程・学習成果【教育方法に関すること】 ・学生のカリキュラムへの理解を深め、学習の効率化を図る。また、成績不振学生へのケアを実施する。 ・With コロナ、ポストコロナに向けて対面授業・オンライン授業を組み合わせての質の高い授業を検討する。 ・教員による履修相談会、2022年度に開始した「先輩学生による相談窓口」、成績不
	平価基準	もたらす影響についても検討課題の一つに加えていただくことを期待したい。 教育課程・学習成果【教育方法に関すること】 ・学生のカリキュラムへの理解を深め、学習の効率化を図る。また、成績不振学生へのケアを実施する。 ・With コロナ、ポストコロナに向けて対面授業・オンライン授業を組み合わせての質の高い授業を検討する。 ・教員による履修相談会、2022 年度に開始した「先輩学生による相談窓口」、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダ
г	平価基準	もたらす影響についても検討課題の一つに加えていただくことを期待したい。 教育課程・学習成果【教育方法に関すること】 ・学生のカリキュラムへの理解を深め、学習の効率化を図る。また、成績不振学生へのケアを実施する。 ・With コロナ、ポストコロナに向けて対面授業・オンライン授業を組み合わせての質の高い授業を検討する。 ・教員による履修相談会、2022 年度に開始した「先輩学生による相談窓口」、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダンス、の成果や効果を評価し、より効果的な対応方法について検討していく。
г	平価基準中期目標	もたらす影響についても検討課題の一つに加えていただくことを期待したい。 教育課程・学習成果【教育方法に関すること】 ・学生のカリキュラムへの理解を深め、学習の効率化を図る。また、成績不振学生へのケアを実施する。 ・With コロナ、ポストコロナに向けて対面授業・オンライン授業を組み合わせての質の高い授業を検討する。 ・教員による履修相談会、2022 年度に開始した「先輩学生による相談窓口」、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダンス、の成果や効果を評価し、より効果的な対応方法について検討していく。 ・コロナが 5 類になり、感染予防の意義に加えてコロナ禍中に獲得したオンライン
г	平価基準中期目標	もたらす影響についても検討課題の一つに加えていただくことを期待したい。 教育課程・学習成果【教育方法に関すること】 ・学生のカリキュラムへの理解を深め、学習の効率化を図る。また、成績不振学生へのケアを実施する。 ・With コロナ、ポストコロナに向けて対面授業・オンライン授業を組み合わせての質の高い授業を検討する。 ・教員による履修相談会、2022 年度に開始した「先輩学生による相談窓口」、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダンス、の成果や効果を評価し、より効果的な対応方法について検討していく。
г	平価基準中期目標	もたらす影響についても検討課題の一つに加えていただくことを期待したい。 教育課程・学習成果【教育方法に関すること】 ・学生のカリキュラムへの理解を深め、学習の効率化を図る。また、成績不振学生へのケアを実施する。 ・With コロナ、ポストコロナに向けて対面授業・オンライン授業を組み合わせての質の高い授業を検討する。 ・教員による履修相談会、2022年度に開始した「先輩学生による相談窓口」、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダンス、の成果や効果を評価し、より効果的な対応方法について検討していく。 ・コロナが 5 類になり、感染予防の意義に加えてコロナ禍中に獲得したオンライン活用スキルのより有効な活用も視野に、対面・オンライン・オンデマンド等の授業
£	平価基準 中期目標 手度目標	もたらす影響についても検討課題の一つに加えていただくことを期待したい。 教育課程・学習成果【教育方法に関すること】 ・学生のカリキュラムへの理解を深め、学習の効率化を図る。また、成績不振学生へのケアを実施する。 ・With コロナ、ポストコロナに向けて対面授業・オンライン授業を組み合わせての質の高い授業を検討する。 ・教員による履修相談会、2022 年度に開始した「先輩学生による相談窓口」、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダンス、の成果や効果を評価し、より効果的な対応方法について検討していく。 ・コロナが 5 類になり、感染予防の意義に加えてコロナ禍中に獲得したオンライン活用スキルのより有効な活用も視野に、対面・オンライン・オンデマンド等の授業形態の使い分けについて検討を続ける。
£	平価基準中期目標	もたらす影響についても検討課題の一つに加えていただくことを期待したい。 教育課程・学習成果【教育方法に関すること】 ・学生のカリキュラムへの理解を深め、学習の効率化を図る。また、成績不振学生へのケアを実施する。 ・With コロナ、ポストコロナに向けて対面授業・オンライン授業を組み合わせての質の高い授業を検討する。 ・教員による履修相談会、2022 年度に開始した「先輩学生による相談窓口」、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダンス、の成果や効果を評価し、より効果的な対応方法について検討していく。・コロナが 5 類になり、感染予防の意義に加えてコロナ禍中に獲得したオンライン活用スキルのより有効な活用も視野に、対面・オンライン・オンデマンド等の授業形態の使い分けについて検討を続ける。 ・これまで実施してきた各種相談会や窓口の成果や効果が把握され、より効果的な対
£	平価基準 中期目標 手度目標	もたらす影響についても検討課題の一つに加えていただくことを期待したい。 教育課程・学習成果【教育方法に関すること】 ・学生のカリキュラムへの理解を深め、学習の効率化を図る。また、成績不振学生へのケアを実施する。 ・With コロナ、ポストコロナに向けて対面授業・オンライン授業を組み合わせての質の高い授業を検討する。 ・教員による履修相談会、2022 年度に開始した「先輩学生による相談窓口」、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダンス、の成果や効果を評価し、より効果的な対応方法について検討していく。・コロナが 5 類になり、感染予防の意義に加えてコロナ禍中に獲得したオンライン活用スキルのより有効な活用も視野に、対面・オンライン・オンデマンド等の授業形態の使い分けについて検討を続ける。 ・これまで実施してきた各種相談会や窓口の成果や効果が把握され、より効果的な対応方法についての知見が得られ、適正化の具体策が提示されている。
£	平価基準 中期目標 手度目標	もたらす影響についても検討課題の一つに加えていただくことを期待したい。 教育課程・学習成果【教育方法に関すること】 ・学生のカリキュラムへの理解を深め、学習の効率化を図る。また、成績不振学生へのケアを実施する。 ・With コロナ、ポストコロナに向けて対面授業・オンライン授業を組み合わせての質の高い授業を検討する。 ・教員による履修相談会、2022年度に開始した「先輩学生による相談窓口」、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダンス、の成果や効果を評価し、より効果的な対応方法について検討していく。・コロナが 5 類になり、感染予防の意義に加えてコロナ禍中に獲得したオンライン活用スキルのより有効な活用も視野に、対面・オンライン・オンデマンド等の授業形態の使い分けについて検討を続ける。 ・これまで実施してきた各種相談会や窓口の成果や効果が把握され、より効果的な対応方法についての知見が得られ、適正化の具体策が提示されている。・対面・オンライン・オンデマンド等の授業形態の特長、科目ごとの利点と不利点に
r £	平価基準 中期目標 手度目標	もたらす影響についても検討課題の一つに加えていただくことを期待したい。 教育課程・学習成果【教育方法に関すること】 ・学生のカリキュラムへの理解を深め、学習の効率化を図る。また、成績不振学生へのケアを実施する。 ・With コロナ、ポストコロナに向けて対面授業・オンライン授業を組み合わせての質の高い授業を検討する。 ・教員による履修相談会、2022 年度に開始した「先輩学生による相談窓口」、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダンス、の成果や効果を評価し、より効果的な対応方法について検討していく。 ・コロナが 5 類になり、感染予防の意義に加えてコロナ禍中に獲得したオンライン活用スキルのより有効な活用も視野に、対面・オンライン・オンデマンド等の授業形態の使い分けについて検討を続ける。 ・これまで実施してきた各種相談会や窓口の成果や効果が把握され、より効果的な対応方法についての知見が得られ、適正化の具体策が提示されている。 ・対面・オンライン・オンデマンド等の授業形態の特長、科目ごとの利点と不利点について、教員や科目ごとに最適化する具体策が提示されている。
年	平価基準 中期目標 手度目標 養成指標 教授会執行	もたらす影響についても検討課題の一つに加えていただくことを期待したい。 教育課程・学習成果【教育方法に関すること】 ・学生のカリキュラムへの理解を深め、学習の効率化を図る。また、成績不振学生へのケアを実施する。 ・With コロナ、ポストコロナに向けて対面授業・オンライン授業を組み合わせての質の高い授業を検討する。 ・教員による履修相談会、2022 年度に開始した「先輩学生による相談窓口」、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダンス、の成果や効果を評価し、より効果的な対応方法について検討していく。・コロナが 5 類になり、感染予防の意義に加えてコロナ禍中に獲得したオンライン活用スキルのより有効な活用も視野に、対面・オンライン・オンデマンド等の授業形態の使い分けについて検討を続ける。 ・これまで実施してきた各種相談会や窓口の成果や効果が把握され、より効果的な対応方法についての知見が得られ、適正化の具体策が提示されている。・対面・オンライン・オンデマンド等の授業形態の特長、科目ごとの利点と不利点について、教員や科目ごとに最適化する具体策が提示されている。
年度	平価基準 中期目標 手度目標 養成指標 教授会執行	もたらす影響についても検討課題の一つに加えていただくことを期待したい。 教育課程・学習成果【教育方法に関すること】 ・学生のカリキュラムへの理解を深め、学習の効率化を図る。また、成績不振学生へのケアを実施する。 ・With コロナ、ポストコロナに向けて対面授業・オンライン授業を組み合わせての質の高い授業を検討する。 ・教員による履修相談会、2022年度に開始した「先輩学生による相談窓口」、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダンス、の成果や効果を評価し、より効果的な対応方法について検討していく。・コロナが 5 類になり、感染予防の意義に加えてコロナ禍中に獲得したオンライン活用スキルのより有効な活用も視野に、対面・オンライン・オンデマンド等の授業形態の使い分けについて検討を続ける。 ・これまで実施してきた各種相談会や窓口の成果や効果が把握され、より効果的な対応方法についての知見が得られ、適正化の具体策が提示されている。・対面・オンライン・オンデマンド等の授業形態の特長、科目ごとの利点と不利点について、教員や科目ごとに最適化する具体策が提示されている。 おによる点検・評価
年	平価基準 中期目標 下度目標 教授会執行 自己評価	もたらす影響についても検討課題の一つに加えていただくことを期待したい。 教育課程・学習成果【教育方法に関すること】 ・学生のカリキュラムへの理解を深め、学習の効率化を図る。また、成績不振学生へのケアを実施する。 ・With コロナ、ポストコロナに向けて対面授業・オンライン授業を組み合わせての質の高い授業を検討する。 ・教員による履修相談会、2022 年度に開始した「先輩学生による相談窓口」、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダンス、の成果や効果を評価し、より効果的な対応方法について検討していく。・コロナが5類になり、感染予防の意義に加えてコロナ禍中に獲得したオンライン活用スキルのより有効な活用も視野に、対面・オンライン・オンデマンド等の授業形態の使い分けについて検討を続ける。 ・これまで実施してきた各種相談会や窓口の成果や効果が把握され、より効果的な対応方法についての知見が得られ、適正化の具体策が提示されている。・対面・オンライン・オンデマンド等の授業形態の特長、科目ごとの利点と不利点について、教員や科目ごとに最適化する具体策が提示されている。 ・部による点検・評価 A
年度	平価基準 中期目標 手度目標 養成指標 教授会執行	もたらす影響についても検討課題の一つに加えていただくことを期待したい。 教育課程・学習成果【教育方法に関すること】 ・学生のカリキュラムへの理解を深め、学習の効率化を図る。また、成績不振学生へのケアを実施する。 ・With コロナ、ポストコロナに向けて対面授業・オンライン授業を組み合わせての質の高い授業を検討する。 ・教員による履修相談会、2022年度に開始した「先輩学生による相談窓口」、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダンス、の成果や効果を評価し、より効果的な対応方法について検討していく。・コロナが5類になり、感染予防の意義に加えてコロナ禍中に獲得したオンライン活用スキルのより有効な活用も視野に、対面・オンライン・オンデマンド等の授業形態の使い分けについて検討を続ける。 ・これまで実施してきた各種相談会や窓口の成果や効果が把握され、より効果的な対応方法についての知見が得られ、適正化の具体策が提示されている。・対面・オンライン・オンデマンド等の授業形態の特長、科目ごとの利点と不利点について、教員や科目ごとに最適化する具体策が提示されている。 「部による点検・評価 A ・これまで実施してきた各種相談会や窓口の成果や効果を評価して、教員による履修相談会を廃止し、2022年度に開始した「先輩学生による相談窓口」と成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」は継続することに変更した。・教員や科目ごとに、対面・オンライン・オンデマンド等の授業形態の利点と不利点
年度末	平価基準 中期目標 下度目標 教授会執行 自己評価	をたらす影響についても検討課題の一つに加えていただくことを期待したい。 教育課程・学習成果【教育方法に関すること】 ・学生のカリキュラムへの理解を深め、学習の効率化を図る。また、成績不振学生へのケアを実施する。 ・With コロナ、ポストコロナに向けて対面授業・オンライン授業を組み合わせての質の高い授業を検討する。 ・教員による履修相談会、2022年度に開始した「先輩学生による相談窓口」、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダンス、の成果や効果を評価し、より効果的な対応方法について検討していく。・コロナが5類になり、感染予防の意義に加えてコロナ禍中に獲得したオンライン活用スキルのより有効な活用も視野に、対面・オンライン・オンデマンド等の授業形態の使い分けについて検討を続ける。 ・これまで実施してきた各種相談会や窓口の成果や効果が把握され、より効果的な対応方法についての知見が得られ、適正化の具体策が提示されている。・対面・オンライン・オンデマンド等の授業形態の特長、科目ごとの利点と不利点について、教員や科目ごとに最適化する具体策が提示されている。 ・部による点検・評価 A ・これまで実施してきた各種相談会や窓口の成果や効果を評価して、教員による履修相談会を廃止し、2022年度に開始した「先輩学生による相談窓口」と成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」は継続することに変更した。・教員や科目ごとに、対面・オンライン・オンデマンド等の授業形態の利点と不利点について検討し、特に大規模授業へのオンライン授業の導入を促すなどの最適化
年度末報	平価基準 中期目標 下度目標 教授会執行 自己評価	もたらす影響についても検討課題の一つに加えていただくことを期待したい。 教育課程・学習成果【教育方法に関すること】 ・学生のカリキュラムへの理解を深め、学習の効率化を図る。また、成績不振学生へのケアを実施する。 ・With コロナ、ポストコロナに向けて対面授業・オンライン授業を組み合わせての質の高い授業を検討する。 ・教員による履修相談会、2022年度に開始した「先輩学生による相談窓口」、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダンス、の成果や効果を評価し、より効果的な対応方法について検討していく。・コロナが5類になり、感染予防の意義に加えてコロナ禍中に獲得したオンライン活用スキルのより有効な活用も視野に、対面・オンライン・オンデマンド等の授業形態の使い分けについて検討を続ける。 ・これまで実施してきた各種相談会や窓口の成果や効果が把握され、より効果的な対応方法についての知見が得られ、適正化の具体策が提示されている。・対面・オンライン・オンデマンド等の授業形態の特長、科目ごとの利点と不利点について、教員や科目ごとに最適化する具体策が提示されている。 「部による点検・評価 A ・これまで実施してきた各種相談会や窓口の成果や効果を評価して、教員による履修相談会を廃止し、2022年度に開始した「先輩学生による相談窓口」と成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」は継続することに変更した。・教員や科目ごとに、対面・オンライン・オンデマンド等の授業形態の利点と不利点

	T	
		り 積極的にすすめる。 ・オンライン授業に対する学生による評価を検証するとともに、大規模授業における
		教員の負担感や教育効果の達成度などについて、対面授業の場合と比較しながら
		検討を進める。
	質保証委員	会による点検・評価
	所見	「先輩学生による相談窓口」,「個別履修相談会」を継続したこと, オンライン・オンデマンド授業の利点・不利点について検討したことを評価する。
	改善のための提言	2022 年から始められた「先輩学生による相談窓口」は、近年細りがちな先輩・後輩間の情報共有を促す意味でも意義深いものなので、今後も継続されることを期待したい。また、オンライン授業は受講生の数が多くなり、授業をさらに大規模化する傾向がある。その可否も含めたオンライン授業の効果、さらに大規模授業全般に関する教員の負担感と教育効果についての検討を進めていかれることを期待する。
計	评価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
Г	中期目標	・初年次教育のうち基礎演習の在り方について、より効果的な教育内容、教育方法、 少人数教育の一層の充実化を進める。 ・学部教育の中心的存在である演習1、2、3について履修率、卒業論文の提出率の 向上を目指す。また、優秀卒業論文集の刊行を継続し、各演習での学習に活用する。
£	干度目標	・基礎演習の教育内容の向上のために、担当者懇談会の成果を活用することを継続する。 ・基礎演習各クラスの状況と問題点を把握し、複数年度に渡って未解決の問題点の改善に着手する。 ・演習1、2、3の履修率と卒業論文の提出率を向上させる方法が有効に機能しているようの変勢においます。
		るかの確認にむけて、履修状況、運営実態を分析する。 ・web 公開された優秀卒業論文集の活用状況について把握し、活用事例などを紹介するなどして「動機づけ」を促し、卒業論文の提出率のさらなるアップにつなげる。
Ĭ	達成指標	・基礎演習担当者による懇談会の成果を活用して、必要に応じて、基礎演習の教育内容の向上策を提案でき、複数年度に渡って未解決の問題を把握できている。 ・演習1、2、3の履修率と卒業論文の提出率を向上させる方法が有効に機能しているかの分析が行われ、有効に機能しているかどうかが判明している。 ・優秀卒業論文集の刊行、web 公開が卒論の「動機づけ」につながっている。
	教授会執行	行部による点検・評価
	自己評価	A
年	理由	・春・秋学期の最終授業回時に基礎演習担当者懇談会を実施し、担当者にアンケートを行った結果を教授会で共有した。 ・懸念されている専門演習の履修率および卒業論文の提出率の低下についての打開策として、上記の懇談会を通じて基礎演習時から専門演習への導入を促すような内容を盛り込んでもらうよう担当教員に提案した。 ・前年度の優秀卒業論文集を刊行しWeb公開を行い、今年度の優秀卒業論文集の掲載論文を選考・決定した。
度末	改善策	・23 年度に一旦歯止めがかかってきたかにみえた卒論提出率は低調のままであり、 向上回復を実現する方策についてさらに検討を進める。
報	質保証委員	会による点検・評価
告	所見	兼任講師を含めた基礎演習担当者との懇談会の担当者へのアンケートの実施,優秀卒業論文集の作成とそのWeb公開を継続していることを評価する。また,結果にはつながらなかったものの,専門演習履修率と卒論提出率の打開策を検討していることも評価する。
	改善のための提言	卒論の提出率が向上せず、低調なままなのは残念である。専門演習での少人数教育は本学部の教育方針の柱の一つである。近年の学生の学習・履修スタイルにおける専門演習の位置付けの変化との関連性に考慮しながら、なぜ学生が卒論執筆のモティベーションを持ちにくい状況にあるのかについて、今後も引き続き検討されることを

#価基準 学生の受け入れ 中期目標	期待したり		期待したい。
中期目標 - 安定した定員充足率が維持できるよう査定する。 - 高等学校的新教育課程の開始に対応して入試料目等の内容を検討する。 - 安定した元皇帝是学校的教教育課程の開始に対応して入試料目等の内容を検討する。 - 安定した元皇帝是学小からの新訳和に対応しつつ、入試経路別に適切な比率を検討する。 - 2025 年入学生からの新訳和に対応しつつ、入試経路別に適切な比率が示されている。 - 2025 年入学生からの新訳和に対応しつつ、入試経路別の適切な比率が示されている。 - 2025 年入学生からの新課程への対応策が明示され、入試経路別の適切な比率が示されている。 - 2025 年入学生からの新課程への対応策が明示され、入試経路別の適切な比率が示されている。 - 3 表別側で情報を特査し、方式別合格者数に反映させた。	評価基準		
中度目標 ・高等学校の新教育課程の開始に対応して入試科目等の内容を検討する。 ・安定した入学定員が維持されるよう、査定とそのための情報収集に行う。 ・2025年入学生からの新課程に対応しつつ、入試経路別に適切な比率を検討する。 ・大学度した定員元足率が維持されている。 ・人教学度の導入を検討するため収集した情報を結査する。 ・2025年入学生からの新課程への対応策が明示され、入試経路別の適切な比率が示されている。 ・人就制度の情報を持立し、方式別合格者数に反映させた。 ・ 海課程による2025年入学中からの入試関連作業について確認し、上房体制や入試経路別の合格者比率について担当者間で情報を共有した。 ・ 経済学部の移転の分針が法人決定されて公開されたことに伴う志望者の動向について持計した。 ・ 経済学部の移転の分針が法人決定されて公開されたことに伴う志望者の動向について持計した。 ・ 経済学部の移転の分針が法人決定されて公開されたことに伴う志望者の動向について検討した。 ・ 経済学部の移転の分針が法人決定されて公開されたことに伴う志望者の動向について検討した。 ・ 経済学部の移転の分針が法人決定されて公開されたことによる志望者の動向について検討した。 ・ 新課程の入学生の結果を精査して初年度の対応を接りかえり、2年目以降の工房体制を未受会による点検・評価 方式別合格者数の調整、経済学部移転の法人決定が公開されたことによる志望者をおいる場合を表しまる。検・評価 方式別合格者数の調整、経済学部移転の法人決定が公開されたことによる志望者をおいていることを連続されていることを連続ともに合格をの進学後の実績に配慮した人試別経路の合格者比率について、今後の場上について検討といいても検討されることを期待したい。また、入試工房体制が安定的に維持されるための工夫についても検討されることを期待したい。また、入試工房体制が安定的に維持されるための工夫についても検討されることを期待したい。また、人談工房体制が安定的に維持されるための工夫についても検討されることを期待したい。 ・専任教員の大員について採用対応する。 ・専任教員の大員について採用対応する。 ・専任教員の大員について採用対応する。 ・専任教員の大員について採用対応する。 ・専任教員の大員を補う形で専任教員が確保できている。 教授会執行部による点検・評価 自己評価 「日本語教育」「哲学」「都市と地域の社会学」の採用人事を行うとともに、今後の退職になき続い。 ・「日本語教育」「哲学」「都市と地域の社会学」の採用人事を行うとともに、今後の退職においる。 「日本語教育」「哲学」「都市と地域の社会学」の採用人事を行うとともに、今後の退職を告げに後任人事をすすめるべきところ据え違いていた英語の発展してよる高級・評価 自己評価 「日本語教育」「哲学」「都市と地域の社会学」の採用人事を行うとともに、今後の退職においる。 「日本語教育」「哲学」「都市と地域の社会学」の採用人事を行うとともに、今後の退職においる。 「日本語教育」「哲学」「本市と地域の社会学」の採用人事を行うとともに、今後の退職に対したった。 「日本語教育」「哲学」「本市と地域の社会学」の採用人事を行うとともに、今後の理解したった。 「日本語教育」「哲学」「本市と地域の社会学」の採用人事を行うともに、今後の理解したった。 「日本語教育」「哲学」「本市と地域の社会学」の採用人事を行うともに、今後の理解したった。 「日本語教育」「哲学」「本市と地域の社会学」の採用人事を行うともに、今後の理解したった。 「日本語教育」「対したった。 「日本語教育」「日本語教育、「日本語教育」「日本語教育、「日本語教育」「日本語教育、「日本語教育」「日本語教育、「日本語教育、「日本語教育、「日本語教育、「日本語教育、「日本語教育、「日本語教育、「日本語教育、「日本語教育、「日本語教育、「日本語教育、「日本語教育、「日本語教育、「日	山岡空子		
安定した入学定員が維持されるよう、査定とそのための情報収集に努める。		中期目標	
- 2025年入学生からの新課程に対応しつつ、入試経路別に適切な比率を検討する。 ・ 安定した定員元足率が維持されている。 ・ 入試制度の導入を検討するため収集した情報を精査する。 ・ 2025年入学生からの新課程への対応策が明示され、人試経路別の適切な比率が示されている。 ・ 2025年入学生からの新課程への対応策が明示され、人試経路別の適切な比率が示されている。 ・ 2025年入学生のための入試関連作業について確認し、工房体制や入試経路別の合格者性学について担当者間で情報を共有した。 ・ 経済学部の移転の方針が法人決定されて公開されたことに伴う志望者の動向について検討した。 ・ 経済学部の移転の方針が法人決定されて公開されたことに伴う志望者の動向について検討した。 ・ 経済学部の移転の方針が法人決定されて公開されたことに伴う志望者の動向について検討した。 ・ 教課程の人学生の結果を特査して初年度の対応を振りかえり、2年日以降の工房体制や入試経路別の合格者比率について検討する。			
安定した定員充足率が維持されている。	左	平度目標	
・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・			・2025 年入学生からの新課程に対応しつつ、入試経路別に適切な比率を検討する。
### 2025 年入学生からの新課程への対応策が明示され、人試経路別の適切な比率が示されている。 教授会執行部による点検・評価 自己評価 A ・安定した定員充足率が維持されている。 ・入試制度の情報を精査し、方式別合格者数に反映させた。 ・発育学節の移転の方針が法人決定されて公開されたことに伴う志望者の動向について検討した。 ・経済学節の移転の方針が法人決定されて公開されたことに伴う志望者の動向について検討した。 が課程の入学生の結果を精査して初年度の対応を振りかえり、2年目以降の工房体制や入試経路別の合格者比率について検討する。 質保証委員会による点検・評価 方式別合格者数の調整、経済学部移転の法人決定が公開されたことによる志望者数の動向についての検討がなされたこと、また、総じて安定した学生定員の充足が維持されていることを増価する。 入試方式別の合格点のバランスから見た合格者数の調整、大学入試をめぐる全国的改善の提言で、今後も引き続き検討を始めていれることを期待したい。まれていることを対していて、で、今後も引き続き検討を始めていかれることを期待したい。また、人試工房体制が安定的に維持されるための工夫についても検討されることを期待したい。 詳価基準 教員・教員組織 中期目標 2022 年度から将来構想委員会、以降に人事構想委員会をもって、適切な専任教員の採用について、適切な科目設定などを確認する。・専任教員の欠員について採用対応する。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			・安定した定員充足率が維持されている。
・2025 年入学生からの教課機への対応束が明示され、人試経路別の適切な比率が示されている。 教授会執行部による点検・評価 自己評価 A ・安定した定員充足率が維持されている。 ・入試制度の情報を持査し、方式別合格者数に反映させた。 ・新課程による2025 年入学生のための入試関連作業について確認し、工房体制や入試経路別の合格者比率について担当者間で情報を共有した。 ・経済学部の移転の方針が法人決定されて公開されたことに伴う志望者の動向について検討した。 ・経済学部の移転の方針が法人決定されて公開されたことに伴う志望者の動向について検討した。 ・経済学部の移転の方針が法人決定されて公開されたことによる志望者数の動向について検討した。 が課程の入学生の結果を精査して初年度の対応を振りかえり、2年目以降の工房体制で入談組路別の合格者数に調整。 所見 が期間について検討かる。 「安保証委員会による点検・評価 が当かれたことを評価する。 ス試方式別の合格点のパランスから見た合格者数の調整、大学入試をめぐる全国的な環境とともに合格者の進学後の実績に配慮した入試別経路の合格者比率についなの提前とない。また、人試工房体制が安定的に維持されるための工夫についても検討されることを期待したい。また、人試工房体制が安定的に維持されるための工夫についても検討されることを期待したい。 ・変的に維持されるための工夫についても検討されることを期待したい。 ・事任教員の大員見込み状況などを確認する。 ・専任教員の大員見込み状況などを確認する。 ・専任教員の大員について採用対応する。 ・安良状況について、適切な料目設定などを確認する。 ・安良状況について、適切な料日設定などを確認する。 ・安良状況について、適切な料日設定などを確認する。 ・安良大対について検討し順次実行していく。 ・今代表別の人員を補う形で専任教員が確保できている。 教授会執行部による点検・評価 自己評価 A 理由 「日本語教育」「哲学」「都市と地域の社会学」の採用人事を行うとともに、今後の要任教員の退職を受けた欠員補充のあり方について検討した。 ・任期途中退職によって欠員が生じていた日本語教育の採用人事を先行させたことにより、本来は間をあけずに後任人事をすすめるべきところ据え置いていた英語の解析人事を発行させたことにより、本来は間をあけずに後任人事をすすめるべきところ据え置いていた英語の解析人事が着実に行われ新任教員の採用が決まったこと、また今後の退職に	ì	幸成指標	
教授会執行部による点検・評価 自己評価		2/947 031	
自己評価 A		-W 1 A -N 7-	
・安定した定員充足率が維持されている。 ・入試制度の情報を精査し、方式別合格者数に反映させた。 ・新課程による2025年入学生のための入試関連作業について確認し、工房体制や入試経路別の合格者比率について担当者間で情報を共有した。 ・経済学部の移転の方針が法人決定されて公開されたことに伴う志望者の動向について検討した。 新課程の入学生の結果を精査して初年度の対応を振りかえり、2年目以降の工房体制や入試経路別の合格者比率について検討する。 電保証委員会による点検・評価 方式別合格者数の調整、経済学部移転の法人決定が公開されたことによる志望者数の動向についての検討がなされたこと、また、総じて安定した学生定員の充足が維持されていることを評価する。 入試方式別の合格点のバランスから見た合格者数の調整、大学入試をめぐる全国的な環境とともに合格者の進学後の実績に配慮した入試別経路の合格者比率について、のの提言 ・実定的に維持されるための工夫についても検討されることを期待したい。また、人試工房体制が安定的に維持されるための工夫についても検討されることを期待したい。 評価基準 教員組織 中期目標 中期目標 2022年度から将来構想委員会、以降に人事構想委員会をもって、適切な専任教員の採用について検討し順次実行していく。 ・専任教員の欠員見込み状況などを確認する。・専任教員の欠員見込み状況などを確認する。・専任教員の欠員見込み状況が確認できている。・・安任教員の欠員見込み状況が確認できている。・・安任教員の欠員見込み状況が確認できている。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			f部による点検・評価
### ### #############################		自己評価	A
####################################			・安定した定員充足率が維持されている。
理田 試経路別の合格者比率について担当者間で情報を共有した。 ・経済学部の移転の方針が法人決定されて公開されたことに伴う志望者の動向について検討した。 ・経済学部の移転の方針が法人決定されて公開されたことに伴う志望者の動向について検討した。 ・教善策 新課程の入学生の結果を精査して初年度の対応を振りかえり、2 年目以降の工房体制や入試経路別の合格者比率について検討する。 「賃保証委員会による点検・評価 方式別合格者数の調整、経済学部移転の法人決定が公開されたことによる志望者数の動向についての検討がなされたこと、また、総じて安定した学生定員の充足が維持されていることを評価する。 へ就方式別の合格点のバランスから見た合格者数の調整、大学入試をめぐる全国的な環境とともに合格者の進学後の実績に配慮した人試別経路の合格者比率について、今後も引き続き検討を進めていかれることを期待したい。また、入試工房体制が安定的に維持されるための工夫についても検討されることを期待したい。 評価基準 教員・教員組織 ・2022 年度から将来構想委員会、以降に人事構想委員会をもって、適切な専任教員の採用について検討し順次実行していく。 ・専任教員の欠員見込み状況などを確認する。・欠員状況について、適切な科目設定などを確認する。・次員状況について、適切な科目設定などを確認する。・事任教員の欠員について採用対応する。 ・専任教員の欠員について採用対応する。 ・事任教員の欠員を補う形で専任教員が確保できている。・事任教員の欠員を補う形で専任教員が確保できている。・専任教員の及員との決解に関ロないに検討した。 ・任期途中退職によって欠員が全じていた日本語教育の採用人事を先行させたことにより、本来は間をあけずに後任人事をすすめるべきところ据え置いていた英語の採用人事をすすめる。 賃保証委員会による点検・評価 可見 3つの採用人事が着実に行われ新任教員の採用が決まったこと、また今後の退職に			
(本) ・経済学部の移転の方針が法人決定されて公開されたことに伴う志望者の動向について検討した。		理由	
大大・ 大大	/ r:	14.11	
大報			
では一次 では一次 で	度		
では、	末	改善策	
方式別合格者数の調整、経済学部移転の法人決定が公開されたことによる志望者数の動向についての検討がなされたこと、また、総じて安定した学生定員の充足が維持されていることを評価する。 入試方式別の合格点のバランスから見た合格者数の調整、大学入試をめぐる全国的な環境とともに合格者の進学後の実績に配慮した入試別経路の合格者比率について、今後も引き続き検討を進めていかれることを期待したい。また、入試工房体制が安定的に維持されるための工夫についても検討されることを期待したい。 評価基準 教員・教員組織	報	新归去委员	
所見 か式別合格者数の調整、経済字部移転の法人決定が公開されたことによる志望者数の動向についての検討がなされたこと、また、総じて安定した学生定員の充足が維持されていることを評価する。	告	資保証安 員	
されていることを評価する。		u	
及善のための提言 スポカス別の合格点のバランスから見た合格者数の調整、大学入試をめぐる全国的な環境とともに合格者の進学後の実績に配慮した入試別経路の合格者比率について、今後も引き続き検討を進めていかれることを期待したい。また、入試工房体制が安定的に維持されるための工夫についても検討されることを期待したい。 評価基準 教員・教員組織 中期目標 ・2022 年度から将来構想委員会、以降に人事構想委員会をもって、適切な専任教員の採用について検討し順次実行していく。 ・専任教員の欠員見込み状況などを確認する。・ ヶ員状況について、適切な科目設定などを確認する。・ 専任教員の欠員について採用対応する。・ 専任教員の欠員について採用対応する。・ 専任教員の欠員について採用対応する。・ 専任教員の欠員について採用対応する。・ 専任教員の欠員を補う形で専任教員が確保できている。 教授会執行部による点検・評価 自己評価 日 理由			
改善のた			
おの提言 で、今後も引き続き検討を進めていかれることを期待したい。また、入試工房体制が安定的に維持されるための工夫についても検討されることを期待したい。		改美のた	
安定的に維持されるための工夫についても検討されることを期待したい。 評価基準 教員・教員組織 中期目標 ・2022 年度から将来構想委員会、以降に人事構想委員会をもって、適切な専任教員の採用について検討し順次実行していく。 ・専任教員の欠員見込み状況などを確認する。・欠員状況について、適切な科目設定などを確認する。・専任教員の欠員について採用対応する。・専任教員の欠員見込み状況が確認できている。・ 専任教員の欠員見込み状況が確認できている。・ 欠員に対する適切な科目設定などが確認されている。・ 欠員に対する適切な科目設定などが確認されている。・ 専任教員の欠員を補う形で専任教員が確保できている。 教授会執行部による点検・評価 自己評価 A 理由 ・「日本語教育」「哲学」「都市と地域の社会学」の採用人事を行うとともに、今後の専任教員の退職を受けた欠員補充のあり方について検討した。・ 任期途中退職によって欠員が生じていた日本語教育の採用人事を先行させたことにより、本来は間をあけずに後任人事をすすめるべきところ据え置いていた英語の採用人事をすすめる。 質保証委員会による点検・評価 3 つの採用人事が着実に行われ新任教員の採用が決まったこと、また今後の退職に			
評価基準 教員・教員組織 中期目標 ・2022 年度から将来構想委員会、以降に人事構想委員会をもって、適切な専任教員の採用について検討し順次実行していく。 ・専任教員の欠員見込み状況などを確認する。・欠員状況について、適切な科目設定などを確認する。・専任教員の欠員見込み状況が確認できている。・専任教員の欠員見込み状況が確認されている。・専任教員の欠員を補う形で専任教員が確保できている。・専任教員の欠員を補う形で専任教員が確保できている。 教授会執行部による点検・評価 自己評価 A 理由 ・「日本語教育」「哲学」「都市と地域の社会学」の採用人事を行うとともに、今後の専任教員の退職を受けた欠員補充のあり方について検討した。・任期途中退職によって欠員が生じていた日本語教育の採用人事を先行させたことにより、本来は間をあけずに後任人事をすすめるべきところ据え置いていた英語の採用人事をすすめる。 賃保証委員会による点検・評価 電保証委員会による点検・評価 3つの採用人事が着実に行われ新任教員の採用が決まったこと、また今後の退職に		67 07 JE E	
中期目標 ・2022 年度から将来構想委員会、以降に人事構想委員会をもって、適切な専任教員の採用について検討し順次実行していく。 ・専任教員の欠員見込み状況などを確認する。・ 内員状況について、適切な科目設定などを確認する。・ 専任教員の欠員について採用対応する。・ 専任教員の欠員見込み状況が確認できている。・ 内員に対する適切な科目設定などが確認されている。・ 内員に対する適切な科目設定などが確認されている。・ 中年教員の欠員を補う形で専任教員が確保できている。 教授会執行部による点検・評価 自己評価 A 理由 ・「日本語教育」「哲学」「都市と地域の社会学」の採用人事を行うとともに、今後の専任教員の退職を受けた欠員補充のあり方について検討した。・ 任期途中退職によって欠員が生じていた日本語教育の採用人事を先行させたことにより、本来は間をあけずに後任人事をすすめるべきところ据え置いていた英語の採用人事をすすめる。 質保証委員会による点検・評価 可見 3つの採用人事が着実に行われ新任教員の採用が決まったこと、また今後の退職に	1	平価基準	
中期目標 の採用について検討し順次実行していく。 ・専任教員の欠員見込み状況などを確認する。 ・欠員状況について、適切な科目設定などを確認する。 ・専任教員の欠員について採用対応する。 ・専任教員の欠員見込み状況が確認できている。 ・次員に対する適切な科目設定などが確認されている。 ・専任教員の欠員を補う形で専任教員が確保できている。 ・専任教員の欠員を補う形で専任教員が確保できている。 教授会執行部による点検・評価 自己評価 A 年 理由 ・「日本語教育」「哲学」「都市と地域の社会学」の採用人事を行うとともに、今後の専任教員の退職を受けた欠員補充のあり方について検討した。 ・任期途中退職によって欠員が生じていた日本語教育の採用人事を先行させたことにより、本来は間をあけずに後任人事をすすめるべきところ据え置いていた英語の採用人事をすすめる。 質保証委員会による点検・評価 ③つの採用人事が着実に行われ新任教員の採用が決まったこと、また今後の退職に			
・専任教員の欠員見込み状況などを確認する。 ・欠員状況について、適切な科目設定などを確認する。 ・専任教員の欠員について採用対応する。 ・専任教員の欠員見込み状況が確認できている。 ・交員に対する適切な科目設定などが確認されている。 ・ 中任教員の欠員を補う形で専任教員が確保できている。 教授会執行部による点検・評価 自己評価 A 申日本語教育」「哲学」「都市と地域の社会学」の採用人事を行うとともに、今後の専任教員の退職を受けた欠員補充のあり方について検討した。 ・任期途中退職によって欠員が生じていた日本語教育の採用人事を先行させたことにより、本来は間をあけずに後任人事をすすめるべきところ据え置いていた英語の採用人事をすすめる。 毎日本語教育の採用人事を生でいた英語の採用人事を生でいた英語の採用人事をすすめる。 毎日本語教育の採用人事を生でいた英語の採用人事を生でいた英語の採用人事をすすめるべきところ据え置いていた英語の採用人事をすすめる。		中期目標	
年度目標 ・欠員状況について、適切な科目設定などを確認する。 ・専任教員の欠員について採用対応する。 ・専任教員の欠員見込み状況が確認できている。 ・欠員に対する適切な科目設定などが確認されている。 ・専任教員の欠員を補う形で専任教員が確保できている。 教授会執行部による点検・評価 自己評価 A 年度 理由 市民教員の退職を受けた欠員補充のあり方について検討した。 ・任期途中退職によって欠員が生じていた日本語教育の採用人事を先行させたことにより、本来は間をあけずに後任人事をすすめるべきところ据え置いていた英語の採用人事をすすめる。 管保証委員会による点検・評価 新日 3つの採用人事が着実に行われ新任教員の採用が決まったこと、また今後の退職に			
	左	F 度目標	
達成指標 ・欠員に対する適切な科目設定などが確認されている。			・専任教員の欠員について採用対応する。
・専任教員の欠員を補う形で専任教員が確保できている。 教授会執行部による点検・評価 自己評価 A ・「日本語教育」「哲学」「都市と地域の社会学」の採用人事を行うとともに、今後の専任教員の退職を受けた欠員補充のあり方について検討した。 末 改善策 ・任期途中退職によって欠員が生じていた日本語教育の採用人事を先行させたことにより、本来は間をあけずに後任人事をすすめるべきところ据え置いていた英語の採用人事をすすめる。 告 質保証委員会による点検・評価 面見 3つの採用人事が着実に行われ新任教員の採用が決まったこと、また今後の退職に			・専任教員の欠員見込み状況が確認できている。
教授会執行部による点検・評価 自己評価 A 理由 中	ì	達成指標	・欠員に対する適切な科目設定などが確認されている。
自己評価 A 理由			・専任教員の欠員を補う形で専任教員が確保できている。
年 理由 ・「日本語教育」「哲学」「都市と地域の社会学」の採用人事を行うとともに、今後の専任教員の退職を受けた欠員補充のあり方について検討した。 ・ 任期途中退職によって欠員が生じていた日本語教育の採用人事を先行させたことにより、本来は間をあけずに後任人事をすすめるべきところ据え置いていた英語の採用人事をすすめる。 質保証委員会による点検・評価 3つの採用人事が着実に行われ新任教員の採用が決まったこと、また今後の退職に		教授会執行	f部による点検・評価
度 専任教員の退職を受けた欠員補充のあり方について検討した。 ・任期途中退職によって欠員が生じていた日本語教育の採用人事を先行させたことにより、本来は間をあけずに後任人事をすすめるべきところ据え置いていた英語の採用人事をすすめる。 質保証委員会による点検・評価 3つの採用人事が着実に行われ新任教員の採用が決まったこと、また今後の退職に		自己評価	A
度 専任教員の退職を受けた欠員補充のあり方について検討した。 ・任期途中退職によって欠員が生じていた日本語教育の採用人事を先行させたこと	年	7⊞ -1	・「日本語教育」「哲学」「都市と地域の社会学」の採用人事を行うとともに、今後の
大	度	理由	専任教員の退職を受けた欠員補充のあり方について検討した。
世界 により、本来は間をあけずに後任人事をすすめるべきところ据え置いていた英語の採用人事をすすめる。 質保証委員会による点検・評価 3つの採用人事が着実に行われ新任教員の採用が決まったこと、また今後の退職に		改善策	・任期途中退職によって欠員が生じていた日本語教育の採用人事を先行させたこと
告 質保証委員会による点検・評価 3つの採用人事が着実に行われ新任教員の採用が決まったこと、また今後の退職に			により、本来は間をあけずに後任人事をすすめるべきところ据え置いていた英語
新見 3つの採用人事が着実に行われ新任教員の採用が決まったこと、また今後の退職に			の採用人事をすすめる。
		質保証委員	<u></u> 会による点検・評価
プログログログログ よる欠員補充についての検討がなされたことを評価する。		7L E	3つの採用人事が着実に行われ新任教員の採用が決まったこと, また今後の退職に
		川兄	よる欠員補充についての検討がなされたことを評価する。

	改善のた	来年度は英語の採用人事が着実に行われ、新任教員が補充されることを期待したい。
	めの提言	また,2023 年度の将来構想委員会で提言のあった「視野形成科目」の人事について も検討されることを期待したい。
評価基準		学生支援
中期目標		・オフィスアワーやゼミなどによる日常的な指導および、「先輩学生による相談窓口」 (2022 年度新規)、成績不振学生に対する個別学習相談会によって学生への修学支援を着実に実施する。
年度目標		・2022 年度に開始した「先輩学生による相談窓口」の実施を継続すると共により効果的なありかたも検討し、初年度学生のキャンパス生活に関する不安に対応する。 ・「個別学修相談会」を実施し、成績不振学生を対象として、履修指導を中心とした修学支援を行う。 ・オフィスアワーの実施を徹底する。
ì	達成指標	・好評である「先輩学生による相談窓口」が着実に実施され、より効果的な運用ができている。・「個別学修相談会」を通じ、成績不振学生の修学支援の成果が出ている。・オフィスアワーが設定され、情報提供されている。
	教授会執行	F部による点検・評価
	自己評価	S
年	理由	 「先輩学生による相談窓口」は実施3年目を迎え、相談に応じてくれる上級生の参加も積極的である。 ・成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」を、例年通り実施した。 ・教授会において多摩キャリアセンターによる学部生の就職動向の報告を実施し、就職支援のあり方について理解を深めた。 ・各教員がオフィスアワーを設定し、学生の相談に対応した。
度末報告	改善策	・「先輩学生による相談窓口」が好評のため、さらに効果的な運用のあり方を検討する。 ・2025 年 1 月に発生したハンマー殴打事件の影響もあり、学生のメンタルヘルスへの懸念が広がっているため、学生相談室や留学生センターなどの関係部署とも協力しながら対応を進めるとともに、教員の理解と協力を呼びかける。
	質保証委員	会による点検・評価
	所見	これまでの様々な取り組みが今年度も着実に継続されていること、特に今年度3年目を迎えた「先輩学生による相談窓口」が良い効果をあげていることを高く評価する。
	改善のための提言	年度末に近い 2025 年 1 月に学生によるハンマー殴打事件が発生したが、これは学生のメンタルヘルスに関する懸念を広めた。今後、学内各部署と協力しながら、この問題への対応を進めていかれることを期待したい。
	评価基準	社会連携・社会貢献
中期目標		・多摩キャンパスで取り組んでいる多摩地域交流センター、グローバル教育センター などが進める事業及び学部の共催協賛等の事業を通じて、社会貢献・社会連携を行っていく。 ・大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などを通じて、社会貢献・社会連携を 行っていく。
年度目標		・ソーシャル・イノベーションセンター (SIC)、グローバル教育センターなどが進める事業を着実に実施する。・大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などへの参加を継続する。・社学コロキアムなどの研究集会について、可能な範囲で学外にも公開する。
達成指標		・ソーシャル・イノベーションセンター(SIC)、グローバル教育センターが進める事業が実施されている。・大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などに参加している。・社学コロキアムなどが実施され、学外にも公開されている。

	教授会執行	f部による点検・評価
年	自己評価	S
	理由	 ・ソーシャル・イノベーション・センターの活動に参加する学生の数が増加し、サークル活動に比する学生のキャンパスライフの基盤の一つになりつつある。 ・大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などに引き続き協力した。 ・社学コロキアムとして、「「生(ライフ)の現場」から障害と運動を問いなおす」および「貧困の犯罪化」の2回を公開で開催した。
度末	改善策	・ソーシャル・イノベーション・センターを通して行われる社会貢献・社会連携に、さらに協力する。
報	質保証委員会による点検・評価	
告	所見	ソージャル・イノベーションセンター、大学コンソーシアム八王子等の連携をつじた 学部の地域・社会連携のこれまでの取り組みが、今年度は学生の参加が進んだことで さらに深まったことを高く評価する。また、「社学コロキアム」が定期的に開催され てきていることも評価したい。
	改善のための提言	教員と学生の参加による地域・社会連携に関する報告や活動が、今後もさらに活発に なることを期待する。「社学コロキアム」も引き続きアクチュアルなテーマ設定で開催されることを期待する。

【重点目標】

社会学部にとっては、2022年度から導入した外国語新カリキュラムの円滑な運営を図りつつ、その教育効果に関する中間評価に着手することが最も重要である。

【目標を達成するための施策等】

教授会、外国語教育委員会および年2回開催する「学科カリキュラム運営会議」において、新カリキュラムの適切な運営が図られているか専任教員間で情報共有を行うとともに、2022年度生の外国語教育に対する教育効果に関する中間評価に資する情報を共有する。

【年度目標達成状況総括】

全体として、着実に達成指標をクリアし、2022年度からの外国語新カリキュラムも、着実に運営されている。

社会貢献・社会連携分野では、ソーシャル・イノベーション・センターの活動が本格化し、学生の参画も好調である。

その一方で、経済学部の市谷移転が法人決定されたことに伴い、中期目標の先を見据えた将来ビジョンの構築の必要性があらたに生じている。

さらに、2025年1月に発生したハンマー殴打事件への対応が、今後の中間目標に向けた動きにも影響 してくることが懸念される。

こうした、中間目標設定時に想定されていなかった周辺状況の変化にも対応しながら、次年度以降も引き続き各年度目標の着実な達成を目指す。

IV. 2025 年度中期目標・年度目標

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	・2022 年度から導入した外国語新カリキュラムの円滑な運営を図る(2022 年度~2025年度) ・2022 年度生の外国語教育の見通しが見え始める 2024 年度以降、外国語新カリキュラムの教育効果に関する中間評価に着手し、改善の必要性についても検討する。 ・2018 年度から導入したカリキュラムについて評価検討し、今後のカリキュラムについて検討する。
年度目標	・外国語新カリキュラム開始時にあたる 2022 年度生の外国語教育の教育効果に関する 最終評価に向けて取り組む。新カリキュラム4年目の運営状況について情報収集を図 る。この際、教授会、外国語教育委員会および年2回開催する「学科カリキュラム運 営会議」を使う。 ・2018 年度から導入されたカリキュラムの評価検討のための情報収集を行い、各会議体

	において、より詳細なかたちで課題の洗い出しを進める。
	・教授会、外国語教育委員会、学科カリキュラム運営会議などで、2022 年度生の外国語
達成指標	教育に対する教育効果に関する最終評価に向けた情報が共有できている。
上次16份	・2018年度から導入されたカリキュラムの最終評価検討のための情報収集蓄積があり、
	詳細なかたちで課題が洗い出されている。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
	・学生のカリキュラムへの理解を深め、学習の効率化を図る。また、成績不振学生への
中期目標	ケアを実施する。
	・With コロナ、ポストコロナに向けて対面授業・オンライン授業を組み合わせての質の
	高い授業を検討する。 ・教員による履修相談会、2022 年度より開始した「先輩学生による相談窓口」、成績不
	振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダン
	ス、の成果や効果をより詳細に評価し、さらに効果的な対応方法について検討してい
年度目標	ζ ₀
	・対面・オンライン・オンデマンド等の授業形態の使い分けについて検討を続けるとと
	もに、教員間で情報を共有する。
	・これまで実施してきた各種相談会や窓口の成果や効果が正確に把握され、効果的な対
)	応方法についての知見が得られ、適正化の具体策が詳細に提示されている。
達成指標	・対面・オンライン・オンデマンド等の授業形態の特長、科目ごとの利点と不利点につ
	いて、教員や科目ごとに最適化する具体策が提示されるとともに、教員間で情報が共 ちされている
評価基準	有されている。 教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
計価基準	
	・初年次教育のうち基礎演習の在り方について、より効果的な教育内容、教育方法、少 人数教育の一層の充実化を進める。
中期目標	・学部教育の中心的存在である演習1、2、3について履修率、卒業論文の提出率の向
	上を目指す。また、優秀卒業論文集の刊行を継続し、各演習での学習に活用する。
	・基礎演習の教育内容の向上のために、担当者懇談会の成果を、論文指導についてなど
	を中心に活用していくことを継続する。
	・基礎演習各クラスの状況と問題点を把握し、半期ごとの担当者変更の試行など、複数
年度目標	年度に渡って未解決の問題点を改善していく。
	・演習1、2、3の履修率と卒業論文の提出率を向上させる方法が有効に機能している
	かの確認にむけて、履修状況、運営実態を分析し、教員間で共有する。
	・優秀卒業論文集の活用状況について把握し、新たなコンテンツを加えるなどによって 「動機づけ」を促し、卒業論文の提出率のさらなるアップにつなげる。
	・基礎演習担当者による懇談会の成果を活用して、必要に応じて、基礎演習の教育内容
	の向上策を提案すると共に、複数年度に渡って未解決の問題の解消にも着手してい
達成指標	5.
	・演習1、2、3の履修率と卒業論文の提出率を向上させる方法が有効に機能している。
	・優秀卒業論文集の刊行や新たなコンテンツが卒論の「動機づけ」につながっている。
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	・安定した定員充足率が維持できるよう査定する。
下州日际	・高等学校の新教育課程の開始に対応して入試科目等の内容を検討する。
	・安定した入学定員が維持されるよう、査定とそのための情報収集に引き続き努める。
年度目標	・入学センターなどから入試制度の検討のための情報収集を引き続き行う。
	・2025 年入学生からの新課程に対応し、入試経路別の適切な比率の検討を続ける。
	・安定した定員充足率が継続している。 ・入試制度の導入を検討するため収集した情報の精査を続ける。
達成指標	・ へ
	- 2025 年八子生からの利味住へ対応がなされると共に、八畝産路別の適切な比率が極続 して示されている。
評価基準	教員・教員組織
口Ш坯牛	以 1人只/IU/N

中期目標	・2022 年度から将来構想委員会、以降に人事構想委員会をもって、適切な専任教員の採用について検討し順次実行していく。
	・専任教員の欠員見込み状況などの確認を続ける。
年度目標	・欠員状況について、適切な科目設定などの確認を続ける。
1 2011 123	・専任教員の欠員について採用対応を継続して行う。
	・専任教員の欠員見込み状況が継続して確認されている。
達成指標	・欠員に対する適切な科目設定などが継続して行えている。
上次11日本	・専任教員の欠員を補う形で専任教員が確保を継続して行えている。
=== /== += :\tau=	
評価基準	学生支援
	・オフィスアワーやゼミなどによる日常的な指導および、「先輩学生による相談窓口」
中期目標	(2022 年度新規)、成績不振学生に対する個別学習相談会によって学生への修学支援
	を着実に実施する。
	・2022 年度に開始した「先輩学生による相談窓口」の実施を継続すると共により効果的
	なありかたも引き続き検討し、初年度学生のキャンパス生活に関する不安に対応して
左连旦捶	いく。
年度目標	・「個別学修相談会」を実施し、成績不振学生を対象として、履修指導を中心とした修
	学支援を引き続き行う。
	・オフィスアワーの実施をより徹底する。
	・好評である「先輩学生による相談窓口」が着実に実施され続け、さらに効果的な運用
)	ができている。
達成指標	・「個別学修相談会」を通じ、成績不振学生の修学支援の成果を継続している。
	・オフィスアワーがより徹底して設定され、情報提供もされている。
評価基準	社会連携・社会貢献
H I I I I I I I I I I I I I I I I I I I	・多摩キャンパスで取り組んでいる多摩地域交流センター、グローバル教育センターな
	どが進める事業及び学部の共催協賛等の事業を通じて、社会貢献・社会連携を行って
中期目標	こが進める事業及の子前の共催励負責の事業を通して、任云貞献・任云連携を行うていく。
下朔口际	
	・大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などを通じて、社会貢献・社会連携を行
	っていく。 ・ソーシャル・イノベーションセンター (SIC)、グローバル教育センターなどが進
左连旦捶	める事業を継続して着実に実施していく。
年度目標	・大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などへの参加をさらに継続する。
	・社学コロキアムなどの研究集会について、可能な範囲で学外にも公開することを続け
	3.
	・ソーシャル・イノベーションセンター (SIC)、グローバル教育センターが進める
達成指標	事業が継続して実施されている。
	・大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などに継続して参加している。
_	・社学コロキアムなどが実施され、学外にも継続して公開されている。

【重点目標】

社会学部では、教育の中心的存在である演習 1 、2 、3 について履修率、卒業論文の提出率の向上を目指していくことが最も重要である。

【目標を達成するための施策等】

優秀卒業論文集の活用状況について把握し、教員や卒論提出者による新たなコンテンツを加えるなどによって「動機づけ」を促し、卒業論文の提出率のさらなるアップにつなげる。また、卒業論文に至る、基礎演習や演習 1、2、3 の在り方について教員間で議論し、情報を共有していく。